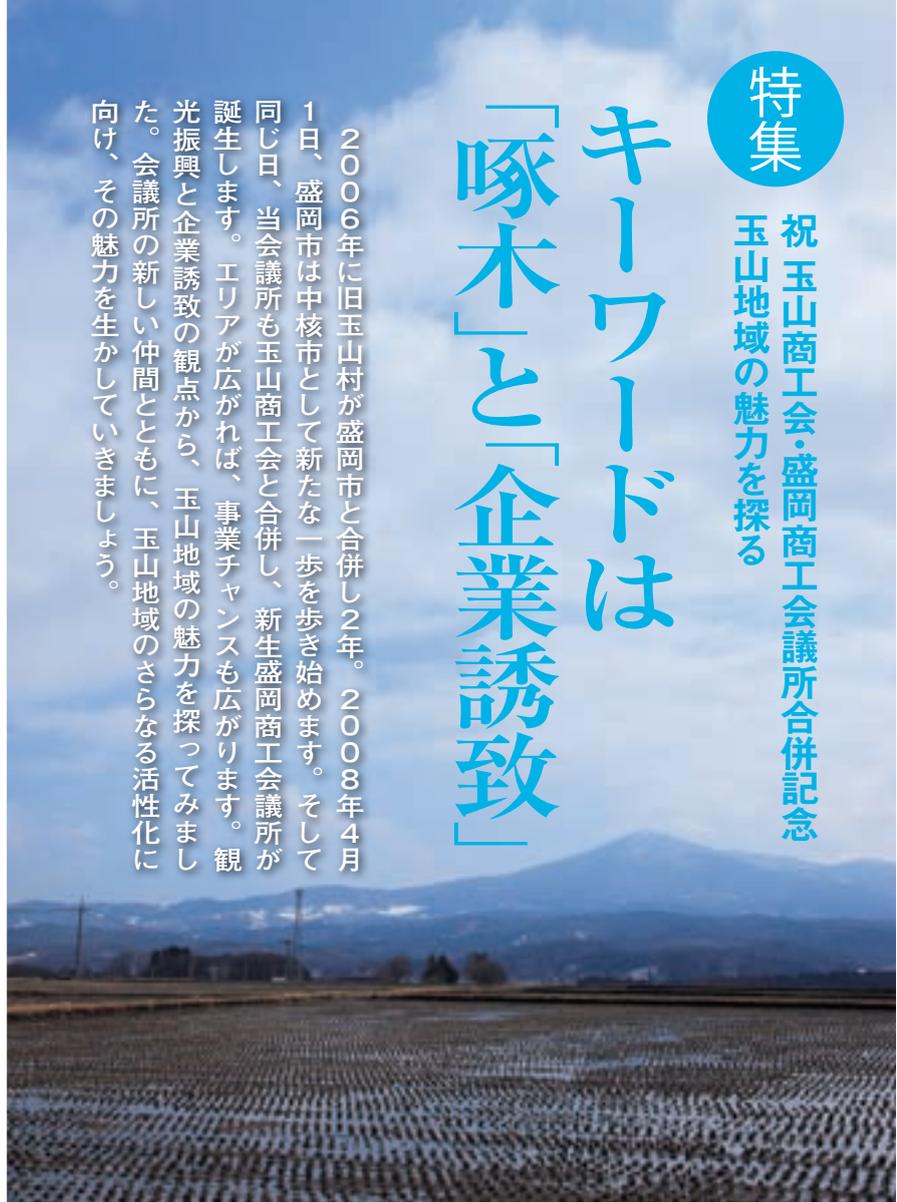


キーワードは

「啄木」と「企業誘致」

2006年に旧玉山村が盛岡市と合併し2年。2008年4月1日、盛岡市は中核市として新たな一歩を歩き始めます。そして同日、当会議所も玉山商工会と合併し、新生盛岡商工会議所が誕生します。エリアが広がれば、事業チャンスも広がります。観光振興と企業誘致の観点から、玉山地域の魅力を探ってみましょう。会議所の新しい仲間とともに、玉山地域のさらなる活性化に向け、その魅力を生かしていきたいでしょう。



玉山地域のシンボル姫神山

啄木の山、啄木の川

玉山地域といえはまず歌人の石川啄木。玉山随一の観光スポット石川啄木記念館の嶋千秋館長は、洪民小学校に校長として赴任したのが縁で玉山の自然景観に魅せられ、玉山の住人になりました。「玉山の観光は、まず一つは姫神山、岩洞湖といった自然景観、そしてもう一つは、啄木文学による文学的景観でしょう」と、旧玉山時代は観光協会会長としても活躍されて

いた嶋館長。

お話によれば、姫神山は1時間半で登れる適度な距離から、トレッキングの愛好家にも人気があるとのこと。「奥羽山脈と北上山地が一望できるし、岩手山がよう見えるんだよね」。お勧めの季節は春と夏。春先に咲くスズランの花は、かつては村の花として観光PRにも一役買っていた。また、その他にもキャンプ場なども整備され、四季を通して楽しめる岩洞湖や外山森

林公園、星空が美しい天峰山、田畑や牧草地などの美しい風景が残っています。そんな豊かな玉山の自然の中で育った啄木は、自然破壊への警鐘を訴える文章も残っています。

啄木という大いなる遺産

啄木は、非日常的な特別な世界を対象とするのではなく、生活者の感覚をわかりやすい表現で三行詩にしました。「日本の奈良時代から続く

格調高い短歌を基本にしながら、単に花鳥風月ではなく、現代にもマッチするさりげない日常の生活をありのままに詠っていたのです」と嶋館長は啄木の歌の価値を語ります。だからこそ、いまも啄木の歌に多くの人が共感し、この地を訪ねるのでしよう。

修学旅行が啄木を知るきっかけとなる若者もいます。日本女子大、共立大の附属中学などは、毎年啄木を学びに訪れているそうです。そして次代の啄木を見出すべく、盛岡市では「短歌甲子園」が開催されています。開会式は玉山地域で行われ、市内外から訪れた学生たちが啄木の歌の背景である「玉山」を感じ、歌づくりに挑戦します。

地元が支える啄木遺産

地元でも古くから、啄木を教育に取り入れ、親しんできました。玉山の子どもたちは、かるとから啄木の世界に触れていきます。嶋館長は「洪民小の6年生は年に2回記念館で清掃活動を行ってくれています。洪民中は、国語の選択で、3年生が1

年生に記念館で解説をする授業もあるんですよ」と小中学校の取り組みを紹介してくれました。洪民中の3年生は記念館などで一生懸命勉強し、後輩たちに「啄木」を伝えていくそうです。

また、地元の大人たちも、啄木という遺産を生かす活動をしています。「商工会の女性部は旧洪民尋常小学校の障子の張替えを行ってくれますし、建設に携わっているグループは、防腐処理や簡単な修理を行ってくれています。洪民啄木会さんは、9〜10月は斉藤家で囲炉裏に火をたいて燻蒸しながらお客様とコミュニケーションしてくれます」と、嶋館長。記念館スタッフだけではできない地元の協力体制が確立されているのです。



(上) 洪民公園には啄木の第1号歌碑あり。短歌甲子園出場の学生も訪れます。
(下) 啄木の世界にひたる石川啄木記念館。

豊かな自然が 工業地の魅力に

玉山地域は、工業用地としても注目されています。「玉山区は岩手山の伏流水が多い地域で、地下水が工業用水として使える可能性が高い。それは工業用地としての魅力を高める大きな要因です」と語るのは、盛岡市商工観光部企業立地推進室の村井淳室長。「これまで盛岡市では、工業用水の不足や土地利用計画などの制限もあり、大きな工業用地の確保ができず、なかなか企業を誘致することができませんでしたが、玉山区が市町村合併により誕生したことで、新たな企業誘致のチャンスが生まれようとしています。企業立地促進法により、盛岡広域地域は、組込みソフトやIT・システム関連産業の集積を計画しており、玉山区は、携帯電話や家電のコンピュータ制御機能など、組込みソフトを利用するような製造業者や県で力を入れている自動車関連企業などが検討されるでしょう」と村井室長は予測しています。



湧き水は生出口が有名ですが、啄木が通った愛宕神社近くにも周辺の住民が守る清水がありました。

工業団地の計画は合併計画時にすでに予定されており、18年、19年と調査を進め、今年度、より詳細な調査を行う上で、具体的な計画が出される予定です。県立大学など、IT業界からも注目され



旧浪民小の2階教室。建物は様々な用途に使われ続けて記念館へ来ました。トタン屋根では歌が生きないと仕様にはこだわってきたそうです。「その昔／小学校の柱屋根に我が投げし鞠／いかにかなりけむの歌など、この屋根じゃなければだめでしょう」と、嶋館長は語ります。

活用の道を開く

大学のまち、人材確保も可能な盛岡にとっても新たな展開の可能性が広がります。

浪民地域は駅もあり、インターチェンジも近いといった交通の便のよさ、またショッピングセンターのオープンなどもあり、利便性も向上してきます。パイプ工事が完成すれば、ますます観光や流通

の便もよくなるでしょう。

啄木、姫神山、岩洞湖、藪川そば、ホルモン鍋、黒平豆、ゆでたまご、木工品の他、外山節や神楽といった文化も含め、玉山の地域資源は可能性を秘めています。嶋館長は、この「点」の観光アイテムを、いかに「線」にするかが今後の発展の鍵と見ています。啄木の歌による心の癒しを生かす、観光ルートの開発が望まれます。

また、もうひとつの地域発展の鍵である企業誘致。玉山地域に大規模な工場等の誘致ができれば、盛岡

広域圏の雇用や個人所得、消費に与える影響も大きく、関連産業も含めた経済効果も考えられることから、今後も盛岡市を中心とした積極的な誘致活動が期待されます。

天峰山の麓には、



白、緑、黒、三色のお豆腐をつくるまごころ豆腐工房(左)、お漬物中心の食工房さんきゅう(右)、を始め、体験可能な食の工房を持ち、温泉、産直施設がある「ユートランド姫神」(上)は玉山区の観光スポットの目玉。特産品の黒平(鷹喰)豆は、豆はもとよりお豆腐は色々な商品が揃います。



在京の玉山出身者による桜の植樹がなされ、数年後の開花を待っています。地域活性化という花を開花させるために当所では今後も玉山地域や関係機関と協力した取り組みを進めていきます。

取材／「SANS A」企画編集委員会

■取材協力
石川啄木記念館 019-683-2315
ユートランド姫神 019-683-3215

